

N i c h i c a R i c a でん粉系ヒートシール材新開発

熱で接着力を発現する方式

Nichirica ール剤を開発した。では適用範囲が限られるのラインや水分管理が(静岡市清水区)は、ん粉系接着剤は従来、こともあった。今回の困難な製造工程にも提リカテープで培ったで水分により接着性を発 揮する「水活性型」とを、水 案可能となり、用途のん粉系接着技術を応用 して利用されてきた 発現する方式を採用し、そ だ。し、熱で活性化する新 しいでん粉系ヒートシ ーが、工程条件によつて、熱処理主体、新開発材は一般的な

箱の角底補強である。

既存設備との親和性も、今回の開発ではさらに高く、角底部の強度向上に寄与するほか、設備改造がほとんど不要な点も利点だ。一方で、用途は角底にとどまらず、宅配袋の封緘、紙箱のラップの固定、表示ラベルやPOP用途など、紙包装分野全体への波及を見込んでいる。

今回、開発ではさらに高く、角底部の強度向上に寄与するほか、設備改造がほとんど不要な点も利点だ。一方で、用途は角底にとどまらず、宅配袋の封緘、紙箱のラップの固定、表示ラベルやPOP用途など、紙包装分野全体への波及を見込んでいる。

既設設備との親和性も高く、角底部の強度向上に寄与するほか、設備改造がほとんど不要な点も利点だ。一方で、用途は角底にとどまらず、宅配袋の封緘、紙箱のラップの固定、表示ラベルやPOP用途など、紙包装分野全体への波及を見込んでいる。

クラフト紙を基材としながら、剤面同士では80℃、紙面では100℃という低温域で紙破壊レベルの強接着を実現する。石油化学系ヒートシール剤の代表例として知られるポリエチレンが約130℃で接着性を発現するのに対し、より低温で強度を得られることから、省エネルギー面でのメリットも大きい。また、しっかりと接着しながら、必要に応じて手で開封しやすいという扱いやすさも備えており、紙加工の現場での使いやすさが評価されつつある。

主用途として想定しているのは、紙袋や紙箱の角底補強である。

既設設備との親和性も高く、角底部の強度向上に寄与するほか、設備改造がほとんど不要な点も利点だ。一方で、用途は角底にとどまらず、宅配袋の封緘、紙箱のラップの固定、表示ラベルやPOP用途など、紙包装分野全体への波及を見込んでいる。

既設設備との親和性も高く、角底部の強度向上に寄与するほか、設備改造がほとんど不要な点も利点だ。一方で、用途は角底にとどまらず、宅配袋の封緘、紙箱のラップの固定、表示ラベルやPOP用途など、紙包装分野全体への波及を見込んでいる。